

平成22年

第1回仙北市議会定例会

市 政 報 告

仙 北 市

平成22年第1回仙北市議会定例会 市政報告

平成22年第1回仙北市議会定例会の開会にあたり、平成21年第8回仙北市議会定例会後の主要事項並びに平成22年度の市政運営の基本方針等について申し上げます。

はじめに、市立田沢湖病院の医師採用について申し上げます。

この度、県内の病院に勤務されている医師より市立田沢湖病院の常勤医師として勤務することに承諾を得ることができました。本年4月1日より採用することとなり、新しい体制により新年度をスタートすることができます。今後も医師確保のため一層の努力をして参る所存であります。

次に、国民健康保険普通調整交付金の返還について申し上げます。

平成21年第2回臨時会において報告いたしておりましたが、会計検査院による旧角館町の平成15年度及び平成16年度国民健康保険会計実地検査が一昨年11月17日に実施され、その後、事後調書の補足を含め追加資料の提出をもとめられ対応して参りましたが、まだ継続中ということになっております。

指摘されたのは、国民健康保険税の減額の調定表に集計表のみ添付されており、個々の異動理由変更額が分かるものが添付されていなかったためであります。

減額された調定額について関係諸帳簿を調査いたしましたが、減額すべき根拠について確認できませんでした。

これに伴い、減額前の調定額により平成15年度及び平成16年度分の国民健康保険普通調整交付金交付額を算定したところ、普通調整交付金が5%過大に交付されていることになり、厚生労働省へ平成22年3月31日まで過大分及び加算金を返還いたしたく、本定例会に補正予算を計上いたしております。

今回の事態につきまして、事務処理の的確性保持の重大性を認識し、今後このような事態が二度と起こらないよう適正な事務処理に努めて参ります。

続きまして、前回の定例会後の各部局等の主要事項並びに諸般の状況を申し上げます。

【総務部】

◇行政懇談会について

1月11日から2月3日まで、市内11箇所で行政懇談会を開催したところ、258名の市民の皆様から参加をいただきました。

会議では、私が就任してからの市政報告及び市民の皆様との公約に掲げ、市民分権推進の目玉と考えております地域運営体の設置と、その活動拠点となります市民サポートセンターについて説明した後、参加者からの意見や要望に答える形で行われました。市民の皆さんからは運営体等についての質問や幅広い分野に意見や要望がありましたので、今後検討のうえ実現に向けて調整して参りたいと考えております。

◇角館地区高校整備について

2月1日発行の広報「せんぼく」において、「明日の県立高校を考える市民会議委員」の募集を行いました。

公募による市民会議の委員は、庁内選考委員会において選考が行われた後、学識経験者等からなる「明日の県立高校を考える市民会議」を設置することとしております。市民会議は、18人以内の委員で構成され、市内の県立高校の将来像について、市民の意見等を集約し、6月を目途に提言をいただくこととしております。

◇過疎地域自立促進特別措置法の延長について

本年3月末で期限切れとなる過疎地域自立促進特別措置法の一部改正法案が今国会に提出され、平成28年3月31日までの6年間延長される見通しとなっております。

今回の主な改正内容としては、過疎対策事業債の対象に、市町村道や上下水道などのハードだけでなく、「地域医療(医師)の確保」、「住民の日常的な移動のための交通手段の確保」、「集落の維持及び活性化」対策などのソフト事業も加わる内容となっております。

なお、過疎自治体の指定要件の見直しも行われており、平成17年の国勢調査による人口減少などを反映したものとなり、今回の改正により、

仙北市全域が指定されるかは確定していない状況であります。

◇空き家情報バンク状況について

定住対策の一環として進めております空き家情報バンクは、これまで43軒が登録されており、うち21軒が成約となっております。

今年度、空き家バンクを利用して市内に移住された方は、現在8組のご家族で23名となっております。また、移住への準備としての二地域居住者は8名となっており、バンク制度開設時より51名の方が市内に移住されております。今後更に本市に移住される方が増えるよう定住情報の発信に努めて参ります。

◇市有財産の紹介業務に関する協定について

売却対象となる市有財産に関し、仙北市と社団法人秋田県宅地建物取引業協会との間で、紹介業務について協定を結びました。これは、売却対象となる市有財産のうち、競売で売却できなかった財産を当該協会を通して協会会員である宅地建物取引業者に買受希望者の紹介を依頼し、財産売却を円滑に進めるためのものであります。紹介手数料については、当該物件の売買価格に対し、金額に応じた率(1.05%~5.25%)で算出した金額を支払うものであります。

【市民福祉部】

◇火災発生について

1月に、ボヤ1件、半焼1件の2件の火災が発生、2月上旬には非住家1件が全焼しております

今後とも、ストーブ等の取扱い、及び火の元には十分注意していただくよう啓発活動に努めて参ります。

◇雪害事故について

屋根の雪下ろしによる事故が、12月に2件、1月に4件発生しております。このうち12月の1件が死亡事故、ほか5件はケガの事故でした。

事故多発を受け、お知らせ・ナビにより雪下ろし等の事故に対する注意を呼びかけたところではありますが、今後とも、事故防止の啓発活動に努めて参ります。

◇油漏れの事故について

1月下旬と2月上旬に、油漏れ事故が2件発生しております。

いずれも、家庭用ホームタンクからの油漏れであり、灯油の取扱には十分注意し、給油中の確認を怠らないよう更なる啓発活動に努めて参ります。

◇新型インフルエンザ予防接種について

新型インフルエンザ予防接種については、12月8日から1月29日まで市内各地区と各中学校等で集団接種を行いました。

秋田県感染症週報によりますと、県内1医療機関あたりのインフルエンザ報告数は全県平均、大仙保健所管内とも一桁台と落ち着いておりますが、今後も、引き続き警戒態勢を継続して参ります。

なお、優先接種対象者以外の19歳から64歳以下の一般成人の方への接種も開始されております。接種費用については、低所得者への負担軽減措置として、市民税非課税世帯と生活保護世帯については無料としております。

◇福祉施設民営化について

平成23年4月に、社会福祉法人への移譲を予定しております養護老人ホーム「角館寿楽荘」及び特別養護老人ホーム「かくのだて桜苑」につきまして、昨年8月24日に募集告示を行い、本年1月25日から29日までを応募申請書の提出期間としておりましたが、4つの社会福祉法人から応募がありました。

今後、3月中に仙北市高齢者福祉施設移譲先候補選定委員会において、応募申請書や応募法人からのプレゼンテーションをもとに、移譲に最もふさわしい法人の選定を予定しております。

その後、国・県に対する補助金適正化法に基づく財産処分の報告等の手続きが終了した後、6月市議会に関連議案の提案を予定しております。

また、昨年4月に移譲しました、特別養護老人ホーム「たざわこ清眺苑」について、移譲先であります社会福祉法人県南ふくし会では、秋田県に対して平成22年度社会福祉施設等施設整備計画を提出しておりました。

この計画について、秋田県健康福祉部長から平成22年1月5日付けで、秋田県社会福祉施設等施設整備選定・社会福祉法人設立等審査会において、妥当であるとの意見が出された旨の通知がありました。

なお、計画の概要は、事業実施時期は平成22年度、改築場所は田沢湖田沢字春山地内の田沢湖畔、構造は全室個室ユニット方式で特別養護老人ホーム60床、短期入所施設20床となっております。

◇ノロウイルス感染について

1月29日、角館西保育園の園児19名、保育士1名に、吐き気・おう吐・下痢などの症状が出たため、保育園を休園いたしました。

所轄の保健所の指導・協力を得て10名の検体を検査したところ、7名からノロウイルスの陽性反応が検出されました。

保育園では感染の広がり防止のための緊急対策として、当分の間、給食食器を使い捨て容器に切替え、食べ物の加熱処理、園内での消毒・手洗いなどこれまで以上の徹底を図っているところであります。

【産業観光部】

◇観光客誘客キャラバンについて

県でロケ誘致した韓国ドラマ「アイリス」が、韓国をはじめアジア8カ国で放映され高視聴率を博していることから、仙北市内はロケ地巡りで多くの韓国人観光客で賑わっております。

このような状況の中、1月に観光客誘客キャラバンとして、関西方面、首都圏、台湾・香港の旅行会社・雑誌社等を訪問し、仙北市の旅行商品など観光情報の提供及び誘客活動に取り組んで参りました。

◇仙北地域雇用促進就職面接会について

ハローワーク角館管内における平成21年12月末現在の有効求人倍率は、0.21倍と前月比で0.02ポイント減少し、雇用状況の悪化が続いております。

また、ハローワーク大曲管内における平成22年3月高校卒業予定者の平成21年12月末現在の就職内定率は、81.7%と前年同期比6.9ポイント減となっております。

このように厳しい雇用情勢の中、活力ある仙北地域を目指して、大仙市、仙北市、美郷町及びハローワーク、仙北地域振興局で構成する「仙北地域雇用促進連絡会議」では、企業の人材確保と求職者の就職支援を目的に、1月26日大仙市において就職面接会を実施しました。

参加企業は仙北市からの6社を含む32社、求職者は高校生34名を含む206名で、仙北市からは28名の求職者が面接に訪れ、仕事への意欲などをアピールしました。今後も、当地域における雇用の確保や就労支援等に関係機関とともに取り組んで参ります。

【企業局】

◇温泉事業について

平成20年度に温泉造成のほとんどをまかなっているカラ吹き2号井^{せい}の調査を行ったところですが、管の劣化が著しく、埋設が必須であり、その対策は急務であるとの報告を受けております。

その対策を講ずるには、カラ吹き2号井の噴気を再利用するとしても、代替井戸を新たに掘削した後、現井戸を埋設し新井戸から温泉を供給することとなります。そのためには、どうしても一定期間温泉供給を停止せざるを得ないものであります。

温泉供給停止というリスクを免れるためには、新たな源泉を確保した後、カラ吹き2号井の代替井戸を掘削するという手法が最善であるとの判断から、新たな温泉井戸を掘削するために最適な位置を選定するための調査を行い候補地を選んだところでございます。

今後の事業推進に当たっては、近傍にある乳頭温泉郷の温泉旅館施設各位の同意を得ることが前提であり、関係各位のご理解とご協力が得られるべく努力して参りたいと考えております。

次に、市政運営の基本方針並びに主要な施策について申し上げます。